

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2010年12月調査結果-

2011年1月11日

調査要領

- 調査期間 2010年12月14日～20日
- 調査対象 200社
- 回答企業 123社
- 回収率 61.5%

□DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を合わせ回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

DI値＝（増加・好転などの企業割合）－（減少・悪化などの企業割合）

業況・採算：（好転）－（悪化） / 売上：（増加）－（減少）

旭川市概況

※全産業の12月の状況を見ると業況DIは、前月より0.4ポイント悪化の▲49.6。

平成7年4月調査開始以来189ヵ月連続マイナス2桁水準で推移している。

業種別では製造業・サービス業の2業種で回復となった。

※向こう3ヵ月の先行き見通し業況DIは▲66.7と悪化しており、依然として厳しい状況である。

業種別でみると、建設業・製造業・卸売業・サービス業の4業種が悪化しており、地域経済や足下の景気感は依然として厳しい状況となっている。

旭川市全産業 DI 値（前年同月比）の推移

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1～3月
業況	▲32.3	▲39.8	▲43.3	▲42.7	▲49.2	▲49.6	▲66.7
売上	▲21.0	▲28.9	▲34.6	▲40.3	▲35.8	▲40.7	▲55.3
採算	▲26.6	▲34.4	▲40.9	▲41.1	▲48.3	▲47.2	▲57.7
仕入単価	▲31.5	▲21.1	▲30.7	▲23.4	▲30.8	▲29.3	▲35.0
従業員	▲12.9	▲9.4	▲11.8	▲12.9	▲13.3	▲7.3	▲17.1
資金繰り	▲14.5	▲20.3	▲16.5	▲21.0	▲17.5	▲14.6	▲30.9

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1～3月
建設	▲50.0	▲60.7	▲58.6	▲51.8	▲55.6	▲55.6	▲81.5
製造	▲4.1	▲25.9	▲25.9	▲33.3	▲37.1	▲32.1	▲50.0
卸売	▲19.2	▲14.8	▲22.2	▲19.2	▲37.5	▲38.5	▲61.6
小売	▲29.2	▲29.2	▲45.4	▲57.1	▲45.5	▲72.7	▲63.6
サービス	▲59.1	▲72.8	▲68.2	▲54.1	▲75.0	▲55.0	▲80.0

今月のトピックス（業界の声）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工事資材業者が工事量減少に伴い、取り扱いを中止し始めている。それだけ業界は悪化の一途を辿っている。 ・ 市場全体が停滞して活気がない。先の予想に見通しがつかず、設備投資実行も中止のままとなっている。 ・ 当社建設業で従業員は季節雇用が多く、毎年数人は通年で残っていたが、先行の見通しが相当厳しいため、やむなく今年度は離職となった。 ・ 民主党政権下、公共工事の大幅な削減により受注も減少。競合激しく、受注物件の採算性悪く総じて業況は悪化している。回復の見込みもない。 ・ 昨年並みに賞与を支給できたことは上出来だったが、来年のことを考えると不安である。 ・ 仕事はあるが、なかなか採算がとれない。
製造業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体的に仕事量はあるものの、安価受注のたたきあい案件もある。 ・ 現在の仕事量もあまり多くないため早めにお正月休みに入るところが多いようである。半月前に見積もりしたときには年明けは今より若干値下げにするとの話だったが、急に年明けから鋼材が値上がりするとの情報に切り替わり困惑している。 ・ 12月は前年と比べると、売上高は若干のプラスとなるが、受注状況から判断すると1月以降は厳しい見込みとなる。 ・ 来月より資材が値上がりする。3年程前も資材が全体的に20%アップしたにも関わらず今回も木材が10%値上がりする事になる。木材の殆どがロシア・中国・アメリカの輸入材であり円高で値下がりしても良いはずなのに時代に逆行しているかのように思える。最近石油の価格も上がってきているのでそれも気になる所である。 ・ 大型店閉店によるテナント店舗閉鎖のための売上減少がここに来て大きく響いてきた。売上減少分を経費の削減でまかないきれずに、業況が悪化。卸売先の価格競争に巻き込まれている。
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 北彩都大型店進出により小売店への影響が大きく、売上も10%~20%と減少している。また官庁の注文も減少しており厳しい状況が続くようである。 ・ 今年最後の月となり、やっと同月対比で前年並みの売上・収支となったが年末の活気には乏しい状況で、相変わらず業界では先の見えない停滞感が漂う。 ・ 師走商戦は主力商品の在庫減・価格の上昇により、苦戦を強いられた月となった。 ・ ギフト商戦についてはやや低調な動きとなっているが、ほぼ前年並みの動きとなっている。しかし、クリスマス・年末の土壇場の動き次第であり、期待と不安が交錯。
小売業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中国産繊維の高騰で仕入単価の上昇による収益悪化は避けられない。繊維業界は国内または中国以外での生産を増やし始めている。 ・ 例年に比べ立ち上がりから集客が少なく、クリスマスギフトを求める客数も減っていて厳しい業況にある。アイテムでは、コートやブルゾンなど重衣料の動きが悪いのも売上げが伸び悩む要因。天候の不順もある。 ・ 据物の卸値が急上昇している。商品の動きが悪く、目的買が中心で衝動買が見られない。リフォームは需要がある。 ・ U-carは黒字だが、新車受注は前年比75%と弱い。年明け以降どの様な市況になるか極めて心配。
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 週末の観光客が減少傾向。ADRは大きく落としていないが、稼働率が減少、年末の予約の鈍化が目立ち対策を講じようがない。忘年会は前年並み。 ・ 12月忘年会等で室の稼働率が上がっているが、少人数のため金額が上がらない。その反面、昼の来客が多く売上に貢献した。今後の景気回復を期待する。 ・ 利用者数は前月に引き続き減少している。悪天候による高速道路通行止めで大幅な遅延が発生している。無料化社会実験の影響で冬期間は事故による通行止めの増加が懸念される。 ・ 宿泊客の入り込み状況が非常に悪い。全般的に旭川に来られる人が減少しているように思われる。

旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI11.1 ポイント、採算 DI7.4 ポイント、従業員 DI7.4 ポイント、資金 DI7.4 ポイント回復。仕入単価 DI 横ばい、総じて業況 DI も横ばいとなった。業種別では総合工事 22 ポイント回復。設備その他 18 ポイント、建築業 5 ポイント悪化となった。市場全体が停滞して活気がなく、先の予想に見通しがつかず、設備投資の実行も中止のままとなっているとの声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI6.8 ポイント、採算 DI2.5 ポイント、仕入単価 DI2.3 ポイント悪化。従業員 DI7.6 ポイント、資金 DI7.8 ポイント回復、総じて業況 DI も 5.0 ポイント回復となった。業種別では食料品 5 ポイント悪化。金属窯業他横ばい。印刷出版 20 ポイント、家具木材 13 ポイント回復となった。半月前に見積もりした時には、年明けは今より鋼材を若干値下げするとの話が、急に年明けから値上がりするとの情報に困惑しているとの声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>仕入単価 DI1.9 ポイント、従業員 DI1.6 ポイント、資金 DI0.3 ポイント回復。売上 DI22.5 ポイント、採算 DI6.1 ポイント悪化、総じて業況 DI も 1.0 ポイント悪化となった。業種別では、繊維 67 ポイント、食料品 14 ポイント回復。機械鋼材横ばい。その他 38 ポイント悪化となった。大型店進出により小売店の影響が大きく売上も 10%~20%と減少している、また官庁の注文も減少し厳しい状況が続きそうであるとの声も寄せられている。</p>
小売業	<p>仕入単価 DI4.5 ポイント回復。従業員 DI 横ばい。売上 DI27.3 ポイント、採算 DI13.6 ポイント、資金 DI13.7 ポイント悪化、総じて業況 DI も 27.2 ポイント悪化となった。業種別では、衣料品 50 ポイント、食料品 40 ポイント、その他 23 ポイント、自動車 9 ポイント悪化となった。例年に比べ立ち上がりから集客が少なく、クリスマスギフトを求める客数も減っていて厳しい業況にあるとの声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI20.0 ポイント、採算 DI20.0 ポイント、仕入単価 DI5.0 ポイント、従業員 DI15.0 ポイント、資金 DI10.0 ポイント回復、総じて業況 DI も 20.0 ポイント回復となった。業種別では、運送 15 ポイント悪化。クリーニング・飲食横ばい。ホテル 33 ポイント、その他 50 ポイント、整備業 42 ポイント回復となった。宿泊客の入り込み状況が非常に悪い。全般的に旭川に来られる人が減少しているように思われるとの声も寄せられている。</p>